



サフラン便り

第11号 16年10月15日発行

発行:佐賀県女性薬剤師会

佐賀市本庄町大字本庄 1269-1

TEL:0952-23-8931

FAX:0952-23-8941

<http://www8.ocn.ne.jp/saffron>

第67回九州山口薬学大会 報告

前日のどしゃ降りは大会成功へのプロローグだったのでしょうか。

佐賀ならではのバルーン係留を楽しめるほどの秋晴れの中、第67回九州山口薬学大会「翔び立とう 新しい風を求めて」 保健・医療・福祉の未来を拓く薬剤師 のテーマで多く方のご参加をいただき成功裡に無事終わりました。

大会特別講演を始めシンポジウムや協議会が開催され女性薬剤師連絡協議会も最終日ではありましたが、104名の参加をいただきました。基調講演は県立女性センターの副館長で佐賀県知事特別補佐の北島悦子先生にお願いしました。人権を尊重する社会、男性・女性の違いではなく、その人の個性と能力が発揮できる社会の実現の為に女性薬剤師に求められている役割や、支援組織との連携の必要性等をご講演されました。各県代表者による意識調査や活動報告の発表後、限りある時間ではありましたが協議が行われました。男女共同参画社会の実現に向けて、女性リーダーとして意思決定の場へ参画することが女性薬剤師の別のスタンスでの社会貢献ではないでしょうか。その為の仲間、背中を押してくれる組織が女性薬剤師会の存在意義であることを確認した学会でした。(日女薬新聞 投稿 宮地)

(近藤由利子会長を囲む会を終えて・・・) 徳淵昭代

ユーモア交えた女薬の本音のお話、最後は皆、近藤会長に元気をもらったと目が輝いていました。全国レベルでの女性薬剤師リーダー存在の重要さをひしひし感じたひとときでした。

(受付・接待) 溝西由宇子

一番の印象は若い父親が赤ちゃんを抱いてごく自然体で参加されていた姿です。男女共同参画に相応しい光景でした。受付の若い方々が講演やポスターに触れて「次は私達も・・・」と言って下さったのが最大の喜びでした。

(お茶席に寄せて) 徳永道代

金木犀の香りが漂う好季節となり、九山大会でのお茶席に労をねぎらっているかの様に安らぎを与えてくれています。

プロの社中さんかのごとく、見事に“おもてなしの心”で“至福の一服を”と女性薬は変身して大活躍して下さい、200個限定のお菓子も足りず大汗かき乍ら大出血サービスを致しました。早朝より茶花も沢山御奉仕下さったり、皆手際よく手落ちもなく手早く終了し感謝の念で一杯です。素晴らしい女性薬の先生方お疲れ様でした。

(キッズルーム) 田中須磨代

大変好評で子供の人数も20名(19日)、16名(20日)とますますでした。長時間でしたがケガもなく、楽しく過ごしてくれて成功だったと思います。

ちょっと一言

秋の虫の音が聞こえ始めると、ちょっぴりおセンチになる空間があります。

ある家族が、入院先で自分の名前を呼ばれることなく、孫くらいの若いスタッフから子供扱いされる親の姿を見て、とても胸を痛めています。健康で社会的にも活躍していた親の姿を知っているだけに、悲しみも深いのです。

でも、その老いた親は何もかも判ったうえで全部を受け入れ、深く包み込んでしまわれているのかもしれない。これまでの人生で培われたお人柄なのではないでしょうか。

私は、「おばあちゃん」と呼んでくれるのは、まだ孫だけでいいかな!! (島田)



日本女性薬剤師会移動セミナー 報告 ~保健・医療・福祉のかけはしになろう~

愛と知性ゆたかな薬剤師をめざして

日時：平成16年9月26日(日) 9:30~16:30

会場：愛知県女性総合センター「ウェルあいち」

<基調講演> 「百歳人口2万人の時代を生きる」

参議院議員

舛添 要一先生

<事例発表> 「薬剤師と高齢者」

愛知県薬剤師会会長

森 公作 先生

<特別講演> 「保健・医療・福祉の私捨^{システム}夢づくりと薬剤師」

~連携促進と意識改革のすすめ~

名古屋工業大学大学院教授

山本 勝 先生

<事例発表> 「褥瘡治療薬で広がる地域の輪、薬剤師の輪」

愛知県褥瘡ケアを考える会代表

水野 正子先生



7年間痴呆症の母親の介護体験と地域薬局間での連携や薬歴簿の重要性の
実感を住民の立場で話された舛添添要一先生を身近に感じらた基調講演でした。

又、「愛知県褥瘡ケアを考える会」では、褥瘡治療薬の適性使用を目的に

『薬剤師褥瘡サミット』を開催し病院薬剤師、大学研究室薬剤師との協働が行われ

厚生省科学研究補助事業の認可を受けています。これはまさに、薬・薬・薬連携の実績です。

今後の活動源になればと願って帰途に着きました。(片江富貴子)

女性の病気に関する情報提供サイト

日本女性薬剤師会発行 全国研修会資料より

更年期障害

更年期障害について一般的な症状、治療法等、一般の人向けに解説している。

- ・ 医療と健康「日本医師会ホームページ」<http://www.med.or.jp/chishiki/kounenki/001.html>

知って得する病気の知識(更年期障害)

- ・ @nifty:健康@nifty 更年期障害特集 http://health.nifty.com/hc/kounenki_index.jsp

更年期かなと思ったら、即効性のあるホルモン療法、副作用が少なく穏やかに効く漢方薬

- ・ インフォseek健康・健康の特集>バックナンバー

<http://health.www.infoseek.co.jp/bknumber/20030226.html>

男と女の今どき「更年期事情」

<第6回佐賀県小児保健大会 資料より>

10月2日(土) 於佐賀大学医学部看護学科

(宮地和子 参加)

昭和30年頃というと、今から50年も前になる。明治・大正・昭和の初期もひっくり返ると、この時代までの台所は家族全員の健康を守る“薬局”のようなものであり、同時に料理法やマナーを教える“学校”であった。台所の手順を少しずつ学び、17,8歳で完全に身につけてしまう。そして、一人前の“先生”として嫁に行き、産まれた子どもに自分が習ったようにして教えた。

和食は米の味を核にして成り立ってきた。味の柔軟性がおかずにのえりごのみをしないという栄養のバランスをとる上でも極めて役に立ち、結果として世界一の長寿民族になれた。食生活の内容が歴史的に間違っていたら決して長生きなど出来なかっただろうし、世界でトップクラスの技術大国にもなれなかったはずだ。

字余り煎溜(女薬版)
九山大会
それぞれの思い
残して長崎へ
秋本番
どこかのチャンネルで
健康番組
打てたね
二百六十二本の
大偉業
(野咲花子作)

(和食文化を学べばそれが「食育」抜粋 食文化研究家 永山久夫著)